

健康診断の検査項目について Vol.13

健康診断で行われる検査項目について、その働き・基準範囲・疑われる疾患などを解説していきます。

〔尿の検査①〕

体内の老廃物の処理や水分の調整の役目をする尿の成分や性質・量などを調べ、腎臓や体の異常を調べる検査です。

尿たんばく(定性)

基準範囲：(-)

健康な人にはほとんど出ないが、腎臓や尿路系に異常があると一定量を超えて尿に漏れ出る。

(+)・・・腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病など

尿糖(定性)

基準範囲：(-)

健康な人にはほとんど出ないが、血中のブドウ糖が多くなりすぎると尿に漏れ出る。

(+)・・・糖尿病・腎性尿糖など

尿潜血(定性)

基準範囲：(-)

腎臓や尿路に異常があると、尿の中に赤血球が混ざって出てくる。

(+)・・・膀胱炎・腎結石・尿管結石など

藤枝健診センター健診検査課主任 高田 雅紀

第50回学校保健セミナーを開催(報告)



当協会と静岡県学校保健会が共催する第50回学校保健セミナーを、本年3月12日に静岡県男女共同参加センター「あざれあ」で開催しました。講師には、第47回学校保健セミナー(平成29年12月1日開催)で「気になる子どもへの対応」を講演いただいた、常葉大学保育学部講師の赤塚めぐみ氏をお招きし、好評につきその続編として行いました。

県内各地から養護教諭など102名の方々が参加され、「続・気になる子どもへの対応」と題された講演に熱心に耳を傾けられました。

講演は、変わりゆく「特別支援教育」から「支援における考え方」「国際生活機能分類」での位置付け、学校現場で対応に困っている「気になる子」について保健室を頼りにする子どもたちのタイプ分け、保健室だからこそ出来ること、「個別対応」「ルールの示し方」「コミュニケーション支援」など、順序付けられた内容でお話しいただきました。

教育現場で対応に困っている「気になる子」について、実際にあった豊富な経験を踏まえ、保健室での具体的な対応の仕方など現場目線に立った大変説得力のある講演でした。(浜松健診センター健康増進課 早川 賢)

井畑主任が第53回予防医学技術研究会議で「大腸CT検査の現状」を口頭発表

(公財) 予防医学事業中央会等が主催する「第53回予防医学技術研究会議」が本年2月7日・8日に水戸市で開催され、医師・臨床検査技師・保健師・看護師など約400名が参加した。当協会からは、総合健診センター放射線課 井畑陽子主任が出席し、「当施設における大腸CT検査の現状」について口頭発表を行った。



〈発表内容〉

当健診センターでは、大腸CT検査を2012年から導入しており、2016年6月に大腸CT用経口造影剤(コロンフォート)が国内初の薬事承認を受けたことに伴い、同年12月より造影剤を使用した「タギング法」を取り入れて検査を行っている。

今回の発表は、現在実施している検査方法や問題点、今後の取り組み等についての報告を行った。

「タギング法」とは、経口造影剤を用いて、腸管内の残渣を標識(タグづけ)し、病変を識別するという方法である。このタギング法導入後、検査精度が要精検率、精検受診率ともに許容値を超え良好な結果が得られている。

また、デジタルクレンジング処理という画像処理を行うことで、標識された残渣を画像上から取り除き、残渣に埋もれた病変を描出する事が可能となった。これにより、腸管内を完全に空にする必要がなく、前処置は大腸内視鏡検査時の1/10の下剤だけで検査が可能になった。

今後は、「タギング法」の課題とされている造影剤の腸管壁へのこびりつき、二層化について、水分コントロールの検討を行っていく。受診者に対し、負担の少ない前処置を検討・選択し、検査の受容性と精度のバランスが保たれた最善の方法を取り入れていきたい。

「痛い・苦しい・恥ずかしい」等の、つらい検査としてのイメージがある大腸内視鏡検査と比べ苦痛が少なく、短時間で気軽に受ける事ができる大腸CT検査を積極的に取り組むことで、大腸スクリーニング検査の受診率を向上させ、大腸病変の早期発見に努めていきたい。



長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> ・造影剤の検査(15分程度) ・大腸内視鏡検査と比べて苦痛が少ない ・検査前後を準備するため大腸の汚染の軽減も可能 ・大腸の造影剤との位置関係が明確である 	<ul style="list-style-type: none"> ・造影剤を採取できない ・病変の色や硬さの情報が得られないため病変の病期が不明 ・口による酸味が強い、検査の持続性のある方は受けることができない

静岡県予防医学協会 総合健診センター ヘルスポートだより

人間ドック受診 当日の流れ

人間ドックを受診する際の当日の流れを紹介します!

1 受付 7:45または8:30の予約制
発券機にて番号札をお取りいただき、番号順にご案内いたします。

問診票・尿・便潜血検査の検体をお預かりし、当日お申込みのオプション検査を確認いたします。
また、検査等のご質問には、専門スタッフがご答えいたします。



2 着替え

更衣室で健診着に着替えていただきます。健診着はS・M・Lサイズをご用意しております。

3 検査

検診待合でお待ちいただき、各検査室から受付時にご案内する番号で呼び出し、検査を行います。

健診は1フロア内で行うため、移動も少なくスムーズにご受診いただけます。



4 昼食

 11:30~

午前中の検査が終了した後、2階カフェテリアでお食事の時間です。天気の良い日にはテラス席もご利用いただけます。カフェテリアでは、無料の自動販売機の設置、お菓子のサービスを行っております。

結果説明までの待ち時間を有意義に過ごしていただけるよう各種マンガ、ぬり絵などのご用意もございます。また、週に1度、保健師による健康講話も開催しています。



5 結果説明

 13:00~

医師による結果説明を行います。午前中に受けた検査のうち、基本的な人間ドックの検査項目である血液やレントゲン、エコー検査など当日中に結果の出る検査の結果説明をお聞きいただけます。

6 栄養・保健指導

結果説明後、栄養士・保健師による相談を実施いたします。生活習慣病予防のため、健診結果を参考に、望ましい食生活や日常生活のアドバイスをいたします。ご希望の場合は、受付時にお伝えください。



7 会計

結果説明または栄養・保健指導の終了後に受付にお立ち寄りいただき、ご精算をお願いします。

2週間~3週間後に健康診断結果票をご郵送いたします。



伊藤文香職員らが「平成30年度予防医学事業中央会学術賞(児玉賞)」を受賞

当協会浜松健診センターの情報管理課伊藤文香職員と大澤副センター長兼情報管理課長が実践した研究事業「納期短縮と残業時間削減を目指す取り組みについて」が認められ、「平成30年度予防医学事業中央会学術賞(児玉賞)」を受賞した。この賞は、平成29年度の第52回予防医学技術研究会議で支部職員が行った優秀な研究発表3題に対して授与されたもので、表彰式が本年2月7日に水戸市で開催された第53回予防医学技術研究会開会式の席上で行われた。

当該研究は、納期短縮と残業時間削減の達成を目的として、課内の人と仕事を調整して作業を配分する取り組みを「4つの見える化」を徹底して行ったものである。なお、研究内容は、本年度(公財) 予防医学事業中央会が発行する「予防医学ジャーナル(研究論文集)」にも掲載される。

第52回予防医学技術研究会議

**納期短縮と残業時間削減を
目指す取り組みについて**

公益財団法人 静岡県予防医学協会
浜松健診センター 情報管理課
伊藤 文香

調整するには・・・

- ・優先順位をつける必要性
- ・必要な箇所へ人を割り振る必要性
- ・予算内で残業・人件費を抑える必要性

職員に納得して協力してもらうために・・・

見える化の徹底

- ☆ヘルプの見える化
- ☆各種健診の工程管理の見える化
- ☆各チームの状況の見える化
- ☆予算と残業の見える化